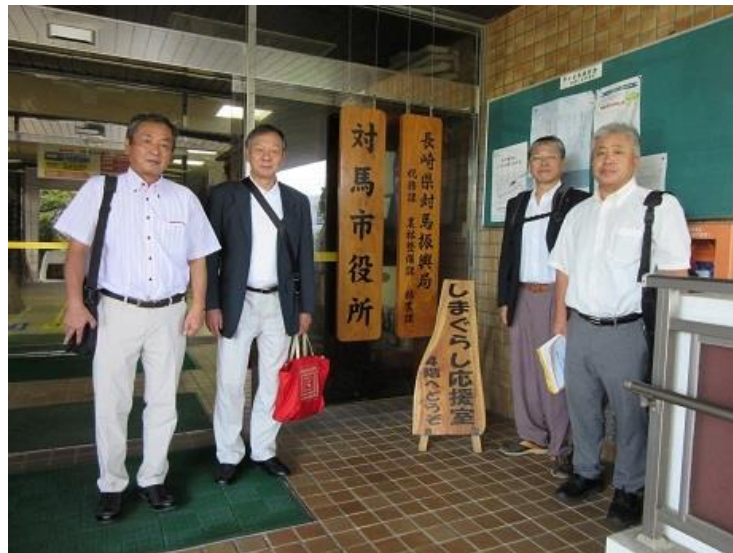


令和元年「創政・改革クラブ」視察報告



令和元年創政・改革クラブ視察・調査			
10月3日	佐賀県平戸市	・観光振興施策について ・ふるさと納税について	
10月4日	長崎県対馬市	・外国人観光客の誘客	
参加者	中田清介・倉田博之 岩垣和彦・谷村昭次		

中田清介

対馬市の「外国人観光客の誘客」について

「対馬の歴史と風土」(対馬市 Hp 等より)

対馬市は平成16年3月島内の6町が合併して誕生した一島一市の自治体です。

対馬は山林が面積の89%を占める自然豊かな島です。厳原町の竜良山と美津島町の白嶽には原始林が残り、国の天然記念物に指定されています。島の地形は標高200m～300mの山々が海岸まで続き、場所によっては高さ100mの断崖絶壁もあり、勇壮な自然を目にすることができます。対馬中央部の浅茅湾は対馬を代表する風景のよいところです。大小幾つもの入江と島々が複雑に入り組んだリアス式海岸で、壱岐・対馬国定公園に指定されています。



対馬の豊かな自然には、国の天然記念物のツシマヤマネコをはじめ、対馬でしか見ることのできない生物や、朝鮮半島などの大陸系の動植物が多く生息しています。また、渡り鳥の中継地であることから、世界でも有数の野鳥の観察地になっています。対馬は日本の中で朝鮮半島に最も近いという地理的条件から、大陸からの石器文化、青銅器文化、稲作、仏教、漢字などを伝える日本の窓口でした。また、朝鮮半島との間では古くから貿易などの交流が盛んに行われていました。この活発な交流から、対馬には数多くの書物、仏像、建造物、朝鮮式山城の金田城跡や古墳などの文化財が残っています。朝鮮半島との友好な交流の歴史の中、1592年～97年の文禄・慶長の役で交流が中断してしまいましたが、対馬藩十萬石の藩主・宗家は朝鮮との関係を元に戻すため、朝鮮通信使を江戸まで案内するなど日本と朝鮮の交流再開に努力しました。

20世紀に入り、一時期、対馬と朝鮮半島との交流が中断した時代もありましたが、対馬にとって朝鮮半島は身近な存在であることは変わりありません。それに過去の長い友好の歴史がありました。一時期中断していた交流も、今では対馬と韓国の釜山が定期航路で結ばれるなど、文化、経済、教育の活発な交流が再開されています。

海に囲まれた対馬は、対馬暖流の影響を受ける温暖で雨が多い海洋性の気候です。春はアジア大陸からの季節風で黄砂が運ばれてきます。この頃は寒さと暖かさが交互にやってくる三寒四温の時期でもあります。約ひと月の梅雨がありますが夏は比較的涼しく過ごすことが出来ます。秋は時々台風がやってきて雨量も多いほうですが、10月頃から晴れた日が多くなります。冬は大陸からの強い季節風で肌寒く冷え込みがきびしくなりますが、雪が積もることはあまりありません。

雨森芳洲と朝鮮通信使 芳洲は江戸中期の儒学者。近江高月町(長浜市)に生まれ江戸の木下順庵に学び、推挙をえて対馬藩に仕えます。元禄11年朝鮮方佐役(朝鮮担当部補佐役)を拝命。その後釜山へ渡り「倭館」に滞在して朝鮮語を学ぶ。朝鮮通信使の江戸行にも同行した。使節団の製述官であった申維翰との交流でも知られている。申維翰が帰国後に著した「海游録」にも描かれている。釜山の「倭館」は、長崎という出島の様な対馬藩の治外法権の地でした。芳洲は篤実な人格で人々の信頼を獲得し、名分や徳業を重視し熱心に子弟の教育にあたりました。

彦根市の宗安寺は、毎回朝鮮通信使の宿舎となった寺として知られています。

「対馬市と高山市の比較」

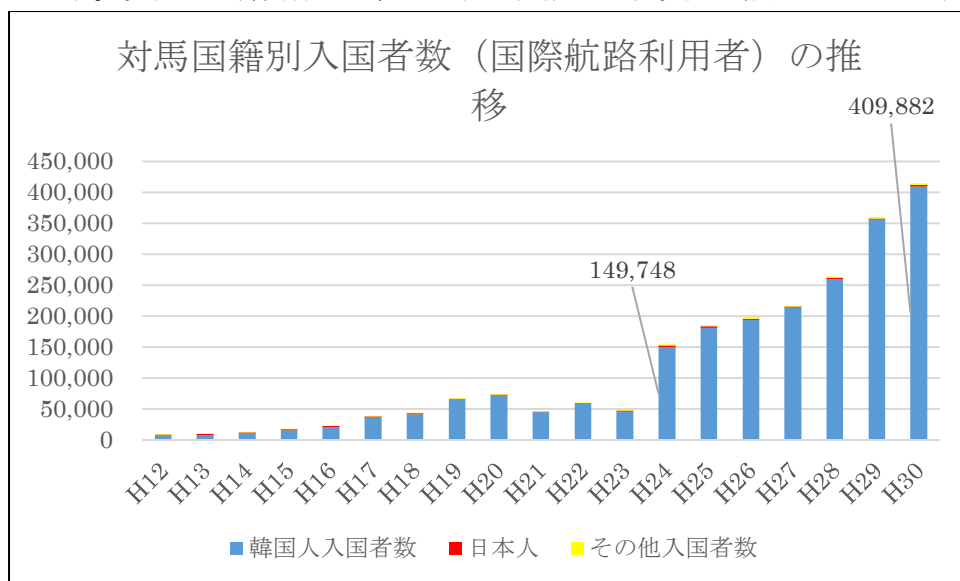
	対馬市	高山市
人口(住民基本台帳)	31,661 人	89,353 人
面積	707.42km ²	2,177.61km ²
世帯数(住民基本台帳)	15,029 世帯	34,974 世帯
年少人口比率	13.10%	13.42%
生産年齢人口比率	52.963%	55.55%
老年人口比率	33.93%	30.89%
地方税収額	29.80 億円	135.73 億円
歳出決算総額	304.57 億円	467.95 億円
経常収支比率	86.2%	79.8%
実質収支比率	1.5%	6.7%
公債費負担比率	26.1%	13.8%
実質公債費比率	9.1%	9.0%
将来負担比率	13.6%	--
財政力指数	0.19	0.52
人口一人当たり地方債残高	140.96 万円	32.71 万円
事業所数	2,064 事業所	6,657 事業所
従業者数	11,039 人	46,603 人
製造品出荷額等	46.42 億円	1,536.37 億円
卸売業年間販売額	206.92 億円	1,051.95 億円
小売業年間販売額	267.33 億円	1,210.70 億円
第1次産業就業構成	19.88%	10.77%
第2次産業就業構成	13.08%	22.79%
第3次産業就業構成	66.92%	65.5%
労働力人口	15,479 人	49,832 人
納税者一人当たり所得	278.841 万円	275.30 万円
公共下水道普及率	0.00%	84.30%

都市データパックによる比較は以上のとおりです。視察時の最新資料による概要は以下のとおりです。

- ・人口 30,586 人 ・世帯数 15,128 世帯 ・就業人口 (15,507 人)
- 第1次産業 (21.7%) 漁業 (77.4%) 一本釣り (イカ、ブリ) 延縄、採介類、定置網漁、養殖
林業 木材生産からシイタケ栽培へ推移
農業 平野部が少ない、島外に依存
- 第2次産業 (12.3%) 建設業 公共事業の減少等により事業所、従業者が減少
製造業 食品、窯業、木材等だが小規模
- 第3次産業 (66.0%) 飲食料品小売業 売り上げが高いが、大型小売店が進出

対馬市の現状

対馬市は平成11年の韓国釜山との国際航路の就航以来、年々入国者数を増やしておりその大部分が韓国人観光客でしめられています。H30年は約41万人、その観光消費額は約91億円と集計されています。現在は日韓関係の悪化から約9割減という状況が報告されています。



産業面での現状は、人口減少社会の中で第3次産業の割合が多くなっており、農林水産業主体での産業構造から観光へのシフトが進んでいます。国のインバウンド観光へのテコ入れもありそうした姿が下の集計からも読み取れます。尚、第1次産業の中に占める漁業の割合は77.4%と高く島を支える主要産業です。中でもイカ釣り漁業生産額は長崎県全体の41.4%を占め島の主要産業と言えます。鯛やブリの一本釣り、延べ縄漁サザエ・アワビの採取、海藻類の採取、まぐろ・真珠の養殖も盛んです。又、アナゴは全国有数の産地として知られています。

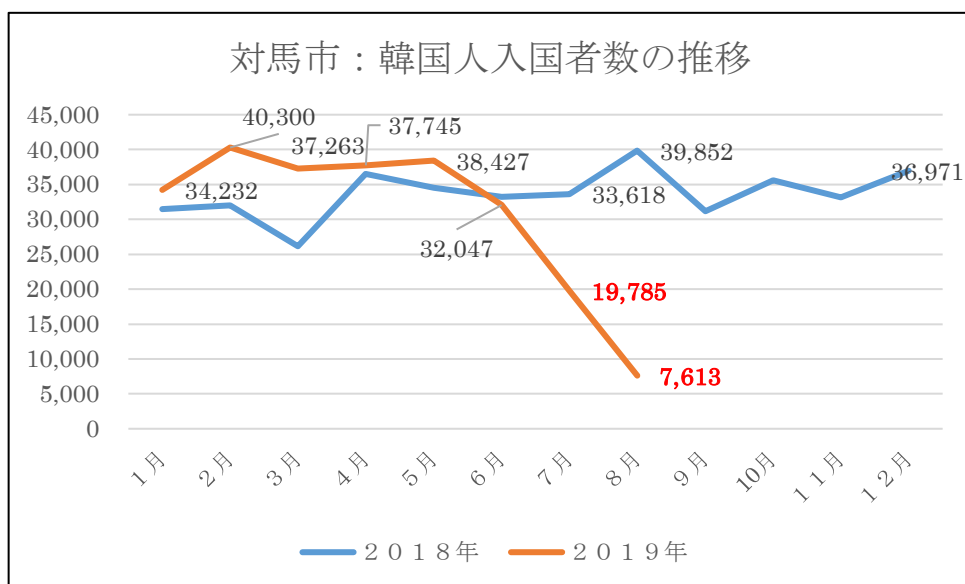
対馬市：産業別就業者数の推移（国勢調査）

区分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就業者総数	21,367	21,292	20,219	18,066	15,507	14,807
第1次産業	6,190	5,621	4,832	3,806	3,357	2,944
	29.0%	26.4%	23.9%	21.1%	21.7%	19.9%
第2次産業	4,130	4,398	3,978	2,971	1,910	1,938
	19.3%	20.7%	19.7%	16.4%	12.3%	13.1%
第3次産業	11,043	11,263	11,409	11,266	10,223	9,910
	51.7%	52.9%	56.4%	62.4%	66.0%	66.9%

- ・平成11年比多勝に国際ターミナル開設
- ・平成12年厳一釜山間定期運航開始
- ・平成13年比多勝一釜山間定期運航開始
- ・平成23年～30年 5社体制で運行 この間船の大型化が進みました。

大亜高速海運（OF：440人）

これらの影響は宿泊、交通、飲食等島の経済への影響が大きく、今後もその回復の見通しが立たないことから、急遽9月20日に関係者による「意見交換会」を対馬市交流センターで開催したと伝えています。



「意見交換会での主な意見」

- ・観光関連業者ばかりでなく商店街も20～30%の落ち込み。これでは持ちこたえられない。
- ・こうした事態は想定されており、韓国一辺倒でよかったのか。諸外国、国内観光客向けのPR不足。観光客を呼び込むコミュニケーション不足である。
- ・国内観光客へのシフトは数年かかる。一日千人の観光客を国内から誘致するには輸送手段的に言っても不可能。激甚災害的なつなぎの支援が必要。
- ・韓国人仕様で整備したホテルでは、設備・スタッフ共に日本人の満足を満たせない。一人でも多くの韓国人の誘致が必要。
- ・韓国資本が店を閉め韓国に戻っている。それに伴いスタッフや運転手などの雇用が切られている。現状の危なさをとらえ先の話より今動いて対策に乗り出ししてほしい。

等、厳しい意見が出て予定時間を越えて2時間の意見交換会であったと。

「訪日客全体での動向と九州の脱「韓国依存」」

昨年韓国からの訪日客は約750万人。観光消費額は約5,900億円。全訪日客の1/4を占めていた。韓国から近く特に影響が深刻なのが九州の観光地。韓国人観光客の落ち込みが長期化すると見て特定の国や地域に偏らず訪日客誘致を進めるところが多い

- ・鹿児島県はSNS等の発信力がある台湾人誘致に、9月補正予算で300蔓延を計上。
- ・大分県は中国・上海での旅行商談会を前倒し、英国や豪州での活動を活発化、さらに中国のオンライン旅行会社シートリップとの協定締結で新たな客層の取り込みへシフトしていると報道されています。

その中で影響が深刻な対馬市の取り組みとして、長崎県と対馬市と連携して「国内客」に対して3千円を割引く宿泊クーポンを売り出し、まずは日本人観光客の誘致に乗り出したと伝えています。

「視察における当クラブからの質問と対馬市の分析と対応」

○観光振興についての取り組み

・インバウンド観光についての現状と課題は？

H30 年は約 4 1 万人の韓国人観光客で消費額約 9 1 億円、現在は日韓関係の悪化から 9 割減。

・対策及び課題は？

観光資源のブラッシュアップと受け入れ態勢の整備、韓国以外のインバウンド誘客を始めている

・国内誘客に向けての取り組み方針については？

国内観光客誘致をより強化（国境離島交付金活用）、首都圏・関西圏の広報を強化している。

○「外交問題が対馬市に与える影響について

日韓関係が良い時には対馬は潤い、悪い時にはその最前線となる。

・観光業に与える影響については？

本年 7 月には約 4 割、8 月には約 8 割の減少。

7 月で約 3 億円、8 月で約 7 億円の消費額が低下。

・観光業以外に与える影響について？

消費額、物流の減少によりあらゆる分野に影響が出てくる

○観光公害についての市の考え方について、及び現状と市民意識

・韓国人観光客による被害は？

ホテルに部屋を韓国の旅行社が通年ブロックする。

神社参拝、タバコ、ゴミに関するマナー問題

釣りマナー問題（撒き餌、漁場荒らし）

飲食店入店時の持ち込み → 韓国人出入り禁止

レンタカー事故の多発、

対馬お土地の買収と韓国人経営者の進出

一国に偏ったインバウンドの被害

○「地域経済に占める観光消費額の現状と、市民の実感について

韓国人観光客の経済効果

平成 2 9 年 韓国人観光客数：356,316 人（日帰り客割合 31%）

島内消費額 約 7,941,000 千円

交通費：480,000 千円

宿泊費：1,144,000 千円

飲食・娯楽費：1,169,000 千円

土産代：5,148,000 千円

就業誘発数：826 人（内雇用誘発数：647 人）

「対馬市の説明による観光の現状分析と観光施策の概要」

○観光の現状と認識

- ・対馬の認識度が低い
- ・観光交流人口を拡大し、経済交流に結び付ける情報発信を志向している
- ・朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産、日本遺産登録を活かした誘客・PR 活動に注力
- ・アニメを活用した PR（アンゴルモア元寇合戦観）も始めている
- ・朝鮮通信使によるまちづくり事業、各種イベント開催支援を展開
- ・ふれあい処つしまを拠点とした観光窓口の充実とおもてなし事業を展開

示し、「自立と循環の宝の島 対馬」を掲げ、

- ・ひと）若者でにぎわう希望の島、
- ・なりわい）地域経済が潤い続ける島、
- ・つながり）支えあいで自立した島、
- ・ふるさと）自然と暮らしが共存した島 を目指すとしています。

そうした中で平成 29 年 3 月には「対馬市観光振興推進計画」を、総合計画が規定する下位計画として策定しています。その中では対馬の外国人観光客の動向と、韓国人観光客の動向についてもその消費額の推移も含め詳細な分析を行っています。

(テーマ) 「対馬型観光まちづくり産業 ワン、ツー、スリー、フォーUP!!」			
■観光振興推進計画の目標■			
目標項目	平成 27 年実績	平成 32 年目標	備考
1 消費額 (円/人)	(宿泊客) ¥19,705- (日帰り客) ¥15,400-	(宿泊客) ¥21,600- (日帰り客) ¥16,900-	10%UP
2 宿泊客数	269,894 人	323,000 人	20%UP
3 日本人観光客実数	177,370 人 (想定数) ※実態調査実施後、見直しを行う	230,000 人	30%UP
4 インバウンド客実数	215,612 人 [韓国人 213,676 人 その他 1,936 人]	302,700 人 [韓国人 300,000 人 その他 2,700 人]	40%UP

又観光実態の把握については、島内で観光に従事している業者、対馬へ多くの観光客を送っている釜山の業者からのヒアリングによる分析を行っており、上位計画の観光振興の考え方、対馬市の観光振興の課題などの記述は的確であり、その目標に掲げるところは私たちの目から見ても「対馬らしさを生かした力強い観光産業を生み対馬の明るい未

来を創造する」ものと理解したところです。そのテーマが上記の平成 32 年目標値です。

そうした目標の実現のための **3 つの戦略**は、

- ① 観光客数の増加を図り安定成長する未来を創造する。
- ② 消費額／人 を高めた豊かな未来を創造する。
- ③ 変化対応力を備え「確かな未来を創造する。

というものであり、それぞれの戦略のもとに **3 つの戦術**を位置付けています（その記載については省きます）。又、その観光振興の推進体制として、対馬版 DMO の設立を予定しており、そのマーケティング機能を充実させようとしていました。今回そうした戦略や推進体制が日韓の国家的対立から全て覆され頓挫したといえます。島内の係者が訴えているように激甚災害指定を想定させる緊急事態だということも納得するところです。

こうした状況ではありますが、島内の最大の政治課題は人口減少問題への対処です。それに伴う高齢化と若年層の流出は深刻であり、視察時の説明によれば島内では高校進学時にその対象人口の 30%は本土の高校への進学で流出、高校卒業時には残り 70%の 9 割が島外へ流出する状況であるとのこと。そうした状況下では各産業の事業継承もままならず、これまで島内を支えてきた産業構造は崩壊へと進むことになり、この先の不安は高まります。そうした事態を打開できるのが観光産業振興による産業構造のシフトです。これまで国のインバウンド観光重視の方針もあり、韓国人観光客増への経過は説明された資料にあるとおりです。観光振興計画にもある様に、一国に偏った観光客誘致ではあっても、永続することが前提での島の経済の浮揚策でもあったと言えます。そうした是正点も緩やかに改正しながら

生き残りを図る計画であったとも見て来ました。今、九州地方がこぞって韓国偏重の観光施策の転換を図っています。一国に偏った観光客誘致のリスクが前面に出てきたからです。しかしそうした転換が短兵急に図れるものではありません。大型船の方向転換がすぐには無理なのと同じ理屈です。どの県も対策には頭を絞ってお見えです。地理的に韓国との距離が近い対馬は何処よりも深刻でした。私たちが渡航した日もホテルの灯は消え、まちなかに観光客の姿が消えていました。

高山市のインバウンドの現状とは大きな隔たりがあると実感してきました。アジアの客層がまんべんなく多面的であり、古くから台湾の観光客誘致に力を入れてきた高山市の努力が今実を結んでいると実感できました。又欧米人の来訪の多さも高山市のインバウンドの強みとなっています。

今回、対馬市の分析と今後の対応をお聞きするにあたって、これまでの韓国人観光客誘致一遍当であったため、ホテル等宿泊施設のレベルが国内客誘致にすぐに対応できない、サービス面でも国内客への対応にすぐに切り替えられないなど困難な課題が横たわっています。長崎県との連携で国内客抜けに3,000円の宿泊サービスのクーポン販売も始まったようですが、少し時間のかかるインバウンド観光の方針転換とその改善への努力と共に、緊急対応の産業支援やテコ入れ策にも心を配っていただきたいと見て来ました。これまでの片寄りからくる危機というには、あまりにもその影響が大きすぎます。

そうした事を考えると、観光客誘致にも今回のような緊急事態に備える「**観光版 BCP**」の策定といった想定も考えねばならないのかなと考えてしまいます。

以前に前東京大学副学長の西村先生の指摘された言葉が思い出されます。「**世界に通用する観光まちづくりは、まずヨーロッパのスタンダードで整えるべきだ。その延長線上にアジアの客層への対応が可能となる**」と。また「**観光まちづくりとは文化政策、商業政策と都市計画の融合です**」とも話されました。もう一つ、観光は全産業の下支えがあって初めて成り立つとよく言われます。第1次産業、第2次産業、地域を支える商業の基盤、そうした地域の総合力があって初めて、地域を支える産業として成り立つものです。改めてバランスの取れた産業振興と観光まちづくりに思いを馳せたところです。

もう一点今回強く感じてきたことがあります。それは島民の皆さんのこれまでの歴史と文化の土壌に根差した強い愛着心です。古くは古代からの韓半島との交流の歴史があります。魏志倭人伝にも記載されています。新羅、百済との交流や遣隋使・遣唐使の派遣経路としての経緯、古くからの両国間での侵攻と交流の要として、長い歴史の糸に紡がれた実績があります。それは地元の皆さんの自負心と言っても良いと思います。

会派では、国際観光都市を標榜する高山市にとってその持続性を考える中では、現在の対馬市の置かれている立場から学ぶものは多いと考え今回視察地を選びました。世界から人を集めるとはどういうことか改めて学ばせていただいたと思っています。またそれをマネジメントするDMOの在り方についても。今回たまたま日・韓両国政府の軋轢から対馬の社会・経済状態は厳しい状況に追い込まれていますが、長い交流の歴史からその縁を断ち切ることは出来ません。これから民間の交流を継続するための島民の皆さんの努力は続くのではないのでしょうか。夕食を予約させていただいた「志まもと」の女将さんは、こうした両国のこれまでの交流の歴史にも詳しく、市役所に伺う前にそうした島民の意識や誇り、今後の両国関係についてのご意見を伺えたのは幸いでした。ありがとうございました。

加えて私たちの視察・調査にご協力いただき、詳細な資料を作成して対応していただきました対馬市観光交流商工部商工観光課長「阿比留正臣」さん、桐谷副市長さん、総務部総務課係長「大塔勝彦」さんに改めて御礼申し上げます。